

## 視覚障がい者

### イベントについて

- そもそも、どの程度まで配慮をお願いできるのか。ほどよいラインがわからない人、言い出せない人など様々。
- 資料は事前に Word でもほしい。そして資料データだけでなく紙でもほしい。  
(後で読み上げアプリやボランティアに読んでもらえるため)
- 開催場所は駅から遠いほど大変になる。ガイドヘルパーさんも Google マップなどを見て行くことが多い。
- 会場に向かうまでの道中、もしくは会場内に点字ブロックがあれば助かる。  
「あそこなら行ける」という安心感があると参加しやすい。
- トイレについては介助が必要な場合も。ヘルパーさんと当事者が男女の組み合わせで移動する場合は注意が必要。
- ちゃんと汚れが拭き取れたのか、目で確認することが困難なため、ウォシュレットがあると嬉しい。
- 多目的トイレは視覚障がい者にとっては広すぎる場合もあり、自分がどこにいるのかわからなくなるケースも。
- 会場にある椅子や机の形などをイメージできると良い。  
→実際に椅子がどこらへんにあるのか触らせてあげるなど、情報を与えられるとGOOD！

### 日常のコト

- メールの記事では伝わりにくいニュアンスは電話で話せるほうがいい。  
要件はメールで、詳細や補足は電話でコミュニケーション取れるといい。
- PC 操作をする時マウスは使えない。ショートカットなら使える！  
(でも外で会議などに行く場合はヘルパーさん向けにマウスは準備する。)
- スマホでのコミュニケーションの際、純正の絵文字なら読み上げできるから使う時もある。  
(LINE のスタンプは読み上げ対応されてないので使わない。)
- 一度スマホを触れるようになると、障がい者の心強い力になる。  
その一方で物理ボタンがないため、ガラケーからの切り替えがなかなかできない人も多い。
- 実は点字を読める視覚障がい者は少ない。
- あかし市民図書館にはユニバーサルルームがある。対面朗読サービス、読み上げ機や  
拡大読書機(ロービジョン向け)、・デージー CD (音声図書、朗読ボランティアが音声入力して  
くれたもの) などがある。

